

新任教員紹介

新しく理学系研究科教授会構成員となった教員を紹介します。

板井 啓明 ITAI, Takaaki

役職 准教授
 所属 地球惑星科学専攻
 着任日 2017年9月1日
 前任地 環境省国立水保病総合研究センター
 キーワード
 環境地球化学(とくにヒ素・水銀など)

Message

奈良県出身です。地球表層の微量元素循環における化学過程の役割に関して、精緻な理論体系の構築に貢献できるよう基礎研究を進めていきたいと考えています。よろしくお願ひ申し上げます。



ウォリス サイモンリチャード WALLIS, Simon Richard

役職 教授
 所属 地球惑星科学専攻
 着任日 2017年10月1日
 前任地 名古屋大学
 キーワード
 地質学・収束プレート境界のテクトニクス

Message

山の下で何が起きているのか? 直接みることができない世界ですが、地表に上昇した岩石には様々なヒントが内在します。前回東京に居た時は金融機関に勤務していましたが、今回は地球科学を楽しみます!



橘 省吾 TACHIBANA, Shogo

役職 教授
 所属 宇宙惑星科学機構
 着任日 2017年10月1日
 前任地 北海道大学
 キーワード
 宇宙化学

Message

太陽系の惑星の多様性に惹かれ、太陽系の起源と進化に関する物質科学的研究をおこなっています。どうぞよろしくお願いいたします。



三尾 典克 MIO, Norikatsu

役職 教授
 所属 フォトンサイエンス研究機構
 着任日 2017年10月1日
 前任地 工学系研究科附属光量子科学研究センター
 キーワード
 レーザー応用研究, 重力波検出, レーザー加工

Message

20数年ぶりに理学系に戻りました。レーザーを利用した実験を中心に研究を進めてきました。基礎研究と応用研究、両方を大事にしていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。



博士学位取得者一覧

(※) は原題が英語 (和訳した題名を掲載)

種別	専攻	取得者名	論文題名
2017年9月4日付 (1名)			
論文	生科	井上 雄介	巨大な新規DNAトランスポゾン <i>Teratorn</i> の構造と転移活性 (※)
2017年9月15日付 (10名)			
論文	物理	大屋 瑤子	数 10 au スケールで見た若い低質量原始星天体の物理的・化学的構造 (※)
論文	物理	河智 史朗	マルチフェロイック物質 BiFeO ₃ の磁場誘起相の研究と電気磁気効果の応用
論文	物理	須田 祐介	スーパーカミオカンデにおける改良型事象再構成アルゴリズムを用いた陽子崩壊探索 (※)
論文	物理	陳 詩遠	LHC-ATLAS 実験における 1 レプトン終状態を用いたグルイーン探索 (※)
論文	物理	劉 若亞	時間分解光電子分光による WSe ₂ 表面のキャリアダイナミクス研究 (※)
論文	地惑	シェリフ 多田野サム	氷期氷床が大西洋子午面循環と気候に与える影響に関する研究 (※)
論文	化学	孫 欣森	界面を駆使した複数の配位性官能基を持つ機能性 π 共役ニッケル錯体ナノシートの構築 (※)
論文	化学	NGUYEN Vu Quang Thanh	有用有機化合物への二酸化炭素の取り込み (※)
論文	生科	新垣 陽子	緑藻ボルボックス系列を用いた多細胞化初期段階の進化生物学的研究 (※)
論文	生科	吉野 次郎	ショウジョウバエ幼虫における侵害受容感覚を担う神経回路の構造・機能的研究 (※)

理学の本棚

「研究者として うまくやっていくには」

学部3年生ぐらいまでは勉強一筋なので、研究とはどんなものか正しくイメージできる学生が少ないのは当然かもしれない。難しい専門書や原書をたくさん読んで、難問の練習問題を解いて、専門知識をたくさん吸収することが大学院でやることだろうと考えている学生がいたとしても不思議ではない。

学部4年生の卒業研究あたりから研究に触れ、大学院で本格的な研究活動をするようになるが、研究と勉強の違いに戸惑いを感じる学生も少なくないようだ。

答えのわからない問題、答えがあるのかどうかさえわからない問題に挑むのが研究。なので、答えがあると最初から分かっている問題ばかりを解いてきた学生にとって、研究は不安との戦いになる。「この研究をやっていて本当に成果が出るのだろうか。そもそもこの研究に意味があるのだろうか。」壁にぶち当たると不安のどん底につき落とされることが多い。



拙著『研究者としてうまくやっていくには』では、学部学生、大学院生、博士研究員、助教、准教授、教授と、それぞれのライフステージで研究者としてもつべき心構えや処世訓を、自分の経験をもとに書き綴った。研究者としてうまくやっていくためには、出版社が勝手につけた大仰な副題だが、「組織の力を研究に活かす」がひとつの答えだと思う。指導教員、先輩、後輩、共同研究者、競争相手などとの議論やコミュニケーションが、研究には本質的に重要なのである。



長谷川修司著
「研究者としてうまくやっていくには」
講談社ブルーバックス (2015年)
ISBN 978-4-06-257951-3

人事異動報告 |

異動年月日	所属	職名	氏名	異動事項	備考
2017.8.15	天文	客員准教授	PACKHAM CHRISTOPHER CHARLES	任期満了退職	
2017.8.24	生科	客員准教授	PARRISH JAY ZACHARY	採用	
2017.8.31	生科	特任助教	国田 勝行	退職	
2017.9.1	地感	准教授	板井 啓明	採用	環境省国立水俣病総合研究センターから
2017.9.1	生科	特任助教	木股 直樹	採用	
2017.9.1	天文セ	特任助教	大澤 亮	採用	
2017.9.10	生科	特任助教	中根 崇智	退職	
2017.9.16	地感	客員教授	KISLER LYNN MARIE	採用	
2017.9.16	物理	助教	木内 健司	採用	
2017.9.30	化学	助教	山添 誠司	退職	首都大学東京教授へ
2017.9.30	ビッグバン	助教	伊藤 洋介	退職	大阪市立大学准教授へ
2017.9.30	生科	特任助教	白崎 善隆	退職	
2017.9.30	生科	特任助教	星野 太佑	退職	
2017.9.30	原子核	特任助教	市川 隆敏	退職	
2017.10.1	地感	教授	WALLIS SIMON RICHARD	採用	名古屋大学大学院環境学研究科教授から
2017.10.1	フォトン	教授	三尾 典克	採用	大学院工学系研究院特任教授から
2017.10.1	宇宙惑星	教授	橘 省吾	採用	北海道大学大学院理学研究科准教授から
2017.10.1	学生支援室	助教	藤原 祥子	配置換	学生相談所助教へ
2017.10.1	物理	助教	大屋 瑤子	採用	
2017.10.1	生科	特任助教	井上 雄介	採用	
2017.10.1	臨海	特任助教	岡西 政典	採用	
2017.10.1	ビッグバン	特任教授	関口 豊和	採用	